

Cognitive SLA研究における知識の測定方法： 明示的・暗示的知識・自動化を中心に

【日時】 10月27日（金） 10：40～12：10

【場所】 文教育学部1号館1階 第一会議室

【参加費】 無料 【使用言語】 日本語

【申し込み】 本学関係者は不要。

学外からお越しの場合は下の連絡先までお申し込みください。

講演要旨

認知的アプローチに基づく第二言語習得研究(Cognitive SLA)を行う上で、「習得」および「第二言語(L2)の知識」をどのように定義するかという問題は避けては通れない。例えば、明示的知識と暗示的知識という区別は、理論的のみならず、教育的な観点からも重要である。また、L2言語知識および言語処理の自動化という関連した概念も存在し、どのようにL2知識を定義して、測定するべきかという問題は複雑に入り組んでいる。本講演では、Cognitive SLA研究を行う上で、L2知識の種類と定義および関連する概念を整理しながら、心理言語学の手法を応用した最近の研究において、どのようにしてL2知識が測定されているかを紹介する(e.g., Suzuki & DeKeyser, 2015; 2017; Vafaei, Suzuki, Kachinske, 2017)。最後に、L2知識の種類および測定方法が、どのようにCognitive SLA研究で活用されるかということについて議論する。

【講師プロフィール】



講師： 鈴木 祐一

略歴： 神奈川大学 外国語学部 准教授

東京学芸大学教育学部日本語教育専攻卒業。東京学芸大学大学院教育学研究科英語教育学専攻修了。メリーランド大学大学院・第二言語習得研究科修了 (PhD. in Second Language Acquisition)。

研究テーマは、明示的知識・暗示的知識の測定方法およびインターフェイス問題、最適な語彙・文法学習スケジュールの特定、適性処遇相互作用。近著に『高校生は中学英語を使いこなせるか？～基礎定着調査で見た高校生の英語力～』(アルク)や『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』(大修館)などがある。

References

- Suzuki, Y. and R. M. DeKeyser (2015). Comparing elicited imitation and word monitoring as measures of implicit knowledge. *Language Learning*, 65(4): 860-895.
- Suzuki, Y. and R. M. DeKeyser (2017). The interface of explicit and implicit knowledge in a second language: Insights from individual differences in cognitive aptitudes. *Language Learning, Early View*.
- Vafaei, P., Suzuki, Y., Kachinske, I. (2017). Validating grammaticality judgment tests: Evidence from two new psycholinguistic measures. *Studies in Second Language Acquisition*, 39(1): 59-95.